

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

令和8年7月7日

総務委員会

速報版

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

午後1時10分開会

○吉岡茂委員長 それでは、ただいまより総務委員会を開会いたします。

————— ◇ —————

○吉岡茂委員長 初めに、記録署名員を指名させていただきます。

ぬかが委員、佐藤委員、よろしくお願いいたします。

————— ◇ —————

○吉岡茂委員長 次に、議案の審査に移ります。

(1) 第77号議案 令和8年度足立区一般会計補正予算(第3号)を単独議題といたします。

執行機関の説明を求めます。

○政策経営部長 恐れ入ります。補正予算(案)の概要1ページを御覧ください。

今回の補正予算でございますが、一般会計第3号補正となっております。1億3,600万円余の増額。

歳入2ページお開きください。

16番の都支出金、また財政調整基金からの繰入金として19番、1億円余の増額の補正となっております。

歳出でございます。

5ページをお開きください。

まず、1件目でございます。民生費3,500万円余となっております。こちらは都の補助金を活用しました被保護世帯向けエアコン購入費補助事業の申請が、当初の予定よりも大きく上回る申請となったことで、予算が不足する見込みとなっております。このための増額の補正となっております。

続きまして、7ページをお開きください。

産業経済費でございます。

こちらはレシートで商品券事業運営業務委託となりまして、当初想定していた申請、大幅に上回る見込みであることから、区民生活や区内事業者支援の観点から、申請期限までの申請分を受け付けることのためによる増額となっております。

9ページには、補正予算後の特定目的基金積立て状況を記載してございます。

私からは以上でございます。御審議よろしくお願いいたします。

○吉岡茂委員長 ありがとうございます。

それでは、何か質疑ありますか。

○いいくら昭二委員 この補正予算につきまして、産業経済費の方は第2回の定例会の方の一般質問で質問しておりますので、細かい話を聞いておりますのであれなのですが、民生費のことについて質問させていただきたいのですが、まずもって我が会派は、区民の皆様の安心・安全のためには積極的な予算措置を望んでおります。

確認事項として質問するのですが、先月の6月5日の臨時会において、補正予算案を出した際は、昨年エアコンの設置状況調査の結果を基に見込み件数を算出したと聞いております。来年はエアコンの省エネ基準が厳しくなるので、購入意欲が高まり、件数の増加が考えられると思います。

そうした様々な状況を考慮して、前回の補正前に改めて精緻に調査をする必要があったのではないのでしょうか。

○足立福祉事務所長 いいくら委員おっしゃるとおり、エアコンの省エネ基準の引上げがあるということがマスコミ報道等でも周知されておりますし、また今回の補助につきましては、昨年まで活用してきました環境部の補助よりも条件ですとか限度額の方が拡充していますので、そうした状況を踏まえまして、前回の補正予算を御提出する前に精緻な調査の方をする必要があったということで反省しております。大変申し訳ございませんでした。

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

○いいくら昭二委員 先月の２５日の総務委員会で私も指摘しましたが、予算については本来、当初予算で計上すべきですが、年度が明けてから２か月後に補正、そしてまた、この最終日にも補正案が出されました。補正予算の必要性は十分理解しております。厳格さが足りないような感じもいたします。

今回も、先月の臨時会の後、予算が不足することが分かったとのことですが、もっと早く必要件数と予算額を精査すれば、先月２５日の総務委員会に間に合ったのではないのでしょうか。

○足立福祉事務所長 ６月５日の臨時会で補正予算のお認めいただきました後に、申請件数の方が大幅に伸びてきたという状況でございましたので、緊急で未申請の受給世帯約１万７，０００世帯ございましたけれども、意向調査の方を行いました。その調査に１週間ほど必要だったということと、また調査後には件数の精査をしなければならないということで時間も要してしまったために、６月２５日の総務委員会には間に合いませんでした。厳格な意識を持って、事前に先ほども回答したとおり、精緻な調査をしていれば短期間でこういった二度も補正することはなかったというふうに反省しております。今後、予算を御審議いただく重みを意識しまして、このようなことのないように心掛けてまいりたいと考えております。

○吉岡茂委員長 よろしいですか。

○ぬかが和子委員 私は、まず最初にエアコンの購入費補助の補正について質問いたします。

この全受給者世帯、エアコン設置状況の再調査見込み件数の一覧表を見ますと、単純に見ると昨年の調査のときに故障世帯が１２７件、それが先ほど言われた緊急の調査では４７４件、ここが一番大きな差異だと思うのですよ。これはどうしてそういうふうになったのか、もう少し丁寧をお願いします。

○足立福祉事務所長 前回の調査につきましては、

ケースワーカーの方が担当の受給者の世帯の方に行ったときにエアコンの設置の有無、またエアコンの故障について現地で確認してるのですけれども、故障についてはエアコンのスイッチを入れて、作動したというところまでは見てはいますけれども、エアコンの効きが悪いですとか、そういった丁寧な確認までは行っていなかったということで、今回丁寧な確認をし、そしてまた、今年度でこの補助が来年はまだ未定ということなので、今年度中に何とか付けていただきたいということで、丁寧な聞き取りをした結果、買い換えたいというような要望が多かったということでございます。

○ぬかが和子委員 そうしますと、故障世帯の中に入ってるけれども、機械は動くけれども、エアコンの効きが悪い、非常に効かない、これ本当につらいものですが、そういう世帯が２５０件あったということになりますか。３５０件。

○足立福祉事務所長 おっしゃるとおりでございます。

○ぬかが和子委員 そうしますと、やっぱりそもそも、これ東京都の方も区の方でも熱中症対策、気候危機の適応策として重視してる策だと思うのですよ。そうすると、そもそも去年の調査のそういう甘さというか、そこに問題があるのではないかなと思うのですけれども、その辺どうですか。

○足立福祉事務所長 ぬかが委員おっしゃるとおりでございます。そこは本当にもうちょっと突っ込んだ、丁寧な聞き取りを行うべきだったというふうに反省しております。また来年度以降も調査ございますので、そこはしっかりやっていきたいと考えております。

○ぬかが和子委員 ほかの件でもあるのですけれども、ケースワーカーさんが利用を促進しようと思って聞き取りをするのと、需給を絞ろうと思って聞き取りをすると、判断が違ってくるのですよ。そういうこともしっかり、本当に当事者に必要なものはきちんと出すのだという立場でやってほし

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

と思います。

それから、一般の高齢者世帯とか低所得世帯と違って、生活保護世帯の場合には、東京都の制度を使っても、またゼロエミを使っても1世帯につきエアコン1台しか駄目ですよとなっていると。

実際に、私が直面した生活保護の受給世帯の方は、住宅密集地の中で、もう古いお宅で一戸建てだけれども、間取りが1フロアがもう1部屋、上のフロアに1部屋、上で御家族で寝ていて、そして下は居間というか食事をする、もう本当に狭いおうちだったのですよ。上の寝る部屋のエアコンが壊れた。だけれども、下のエアコンがあるからということで、この方はエアコンの購入支援を受けられない。でも実際にはそこに男の子とがんのお母さんと、それからおばあちゃんと3人で暮らしてるのですよ。そうすると、男の子は障がいを持ってる、一緒に3人で1階に寝れないのですよ。やっぱりそういうのは命、健康に関わると思うのです。全てとは言わなくても、必要に応じて2台目も認めるような方向に東京都も区も立っていく必要があると思うのですが、どうでしょうか。

○足立福祉事務所長 正に受給世帯の状況というのはそれぞれ違いますし、多数の世帯の方がいる世帯もいるということは承知しておりますが、今回は東京都の要綱に基づいて補助するもので、今回は1世帯1台ということになりますけれども、来年度もまたこういった補助を行うということが、もし東京都の方であれば、東京都の方には2台目というところもしっかり認めていただきたいというふうに要望していきたいと考えております。

○ぬかが和子委員 是非、要望をしっかりしていただきたいし、これ都の10分の10だからそういう仕組みになるわけだけれども、10分の10を受けられなくても、本当に必要に応じて、きちんと命を守るために対応していただきたいと。法外援護といいますか、そういうことは当然、権限としてあるわけですから、是非そこも考えていただ

きたいというふうに思います。

それから、レシートd e 商品券の方ですけれども、これについては、この委員会の説明資料でいきますと、大幅に申請件数が増加し、約12万件に達する見込みであるとしてあるのですが、見込みであるとしてあるけれども、もう6月23日の申込み期限を過ぎているわけで、実際には見込みではなくて、実績も明らかになっていると思うのですね。どうでしょうか。

○産業振興課長 失礼しました。資料作成過程でございまして、そちら見込みと書かせていただいたところでございます。11万9,252件という数字になっております。ただ、郵便局から後から6月23日までの消印のものが出てくると、数の増減があります。まずないと思いますが、現時点は11万9,252件となっております。

○ぬかが和子委員 そうだとすると、この議案そのものは、時期的には当然締め切られる前につくられたと思うので、記載しているのはやむを得ないと思うのですが、この議案についての説明の中で、この議案説明の中では達する見込みであるとして書いてありましたけれども、実際には締め切っていたので、何件でしたとか、そう言うべきだったのではないのでしょうか。

○政策経営部長 申し訳ありません。そのように思っております。次回からそのように補足をさせていただきます。

○ぬかが和子委員 その上で、私たちはこのレシートd e 商品券は本当に多くの方が参加しておりますし、定着してるから増えているのだろうと、金額の増が原因だというふうに先ほど言われてましたけれども、3,000円になったということで。それだけではなくて、やっぱり続けてやっていることで、また今年もやるのねと、知れわたってきている、その周知が広がっていることがやっぱり増えている要因にもなっているのではないかと思うのですが、どうでしょうか。

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

○産業振興課長 こちらについては、実施後にアンケートに参加して、何で参加しましたか、また参加した回数なども聞きますので、そういったことを分析して、どういう要因があったのか考えていきたいと思います。

○ぬかが和子委員 どういう要因か考えていきたいと言ってるけれども、事前の説明だから、今のお話の中で金額を増やしたこともあってと、一つはもう要因として言ってますよね。それはちょっと乱暴かなと。今みたいなお答えだったら最初の説明が違ってるということになるのではないですか。

○区長 要因として、今回も複数回やってましたけれども、ここのところ伸びが鈍化してまして、前回程度の数というのが頭打ちではないかという前提に立って、今回9万件ということでございます。ですから、やはり金額の面と、そしてこれだけぎりぎりになっても、一定程度のハードルが高い事業です。集めたものを貼って封筒に入れて送ると、そこまでしてもやはり3,000円ということに魅力を感じていただけたということを考えれば、それだけ今の物価高騰の状況が厳しかったということも相まってということでございますので、今、産業振興課長が答弁したとおり、何が一番この事業の最後、仕上げをしたのかということについては、少し時間をいただいて分析をする必要があると認識しております。

○ぬかが和子委員 その分析をするときに、私はこのレシートde商品券というのは、いろいろな効果があると思ってるのですよ。商店などと対面で対話をする、そして判こを押してもらわなきゃいけないわけだから、大型店だとあそこにあるから押してくださいというのも一部ありますけれども、でも基本的には対面で押す。そして、そういうことでいうと、地域の商店との対話ができる。このことも高齢者いろいろな利用する人にとってもプラスアルファになる、いろいろなそういうプラスの側面というのが、単に経済的なものだけでない

効果があるのではないかと考えていて、そういうところもしっかり分析していただきたいと思います。

その上で、やっぱり12万人というのは、Pay Pay商品券が7万人いかなかったことを考えますと、12万人というのは本当に多くの人に広がってる、それでも区の考えからいけばごく一部というふうに言うのでしょうかけれども、それでも商品券よりははるかに多いわけですよ。

これ本会議のときに質問させていただいて、Pay Pay商品券が非常に公平性欠くといったときに、デジタル弱者の方についてはレシートde商品券があるのだから、そっちを利用してもらうことで公平性担保できるという旨の答弁をしているのですよ。そうしますと、このレシートde商品券を使った方の中でPay Pay商品券も使ってる人というのは調査していますか。

○産業振興課長 申し訳ございません。そちらについては調査は行っておりませんし、今回のアンケートにも入れていないところでございます。

○ぬかが和子委員 そうすると、Pay Pay商品券の弱者の問題、どうですかという答弁も、いいかげんというか、エビデンスがない答弁だと思うのですよ。だって、このレシートde商品券使った方が、ほかの区のそういう支援事業使ってるかどうか、それがこれしか使えない人がどのぐらいいたのか、そういうことをつかむことで初めて次に生きる検証ができるのではないかと。

私はこのレシート商品券、今回の増額も当然だし、やっていただいてありがたいと思うし、これからも続けてほしいと、大事な事業だと思ってるのです。その上で、そういう角度でちゃんと考えていただかないといけないのではないかと思います。うのですが、どうでしょうか。

○区長 Pay Pay商品券のときに、何か調査ができないかということで、Pay Payを使われた方がレシート使ったかどうかということは後に

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

なりますけれども、それをお尋ねすることができ
るかと思いますので、そういったことも一つ選択
肢に入れて考えてまいります。

○吉岡茂委員長 他に質疑よろしいですか。

○加地まさなお委員 私もレシートd e 商品券のと
ころでお伺いしたいと思います。

そもそも、これ数々問題がある中で、我が会派
としても多数質問させていただきました。先日の
定例会のところで富田議員の方から質問をさせ
ていただいて、その中身としてもやはり先着順と
しながらも、これは実際に上限はるかに超過した
ときどうするのかというような質問をさせていた
だきました。その点に関して、答弁が郵送で消印
有効という性質上、締切りの消印まで9万件超え
ても受け付ける予定だったという答弁いただい
ております。

商品券の金額が上がっている中で、応募が殺到
するということは、これも十分に予測できていた
と思います。今回のように万単位で上限を超過す
るような状況というのは想定していたのか、また
その際の対応というのは、あらかじめ事前に考え
られていたのかというところをお聞かせください。

○産業振興課長 こちらについては、昨年度、おと
としが約8万件で、その次は申請件数ですと8万
8,000件だったので、大体この事業のニーズ
がそのくらいだというふうに踏んで、数を設定し
てございます。もちろん金額が上がった効果とい
うのも少し踏まえましたが、それを踏まえても、
9万件ぐらいで終わるだろうという推測をしてい
たところでございます。

○加地まさなお委員 その辺は事前に聞かせていた
でたので分かるのですけれども。ある程度は
今回のこの補正に対しての説明もいただきました
が、その中でも昨今の世界情勢による物価高であ
ることを捉まえて、期日までに申請されたものを
受け入れるとありました。この状況も考えて、全
部受け入れるというのは、決めたことなら分かる

のですが、それ気持ちよく私も分かります。先ほ
どぬかが委員のおっしゃるとおり、大変な中で対
応していくということは区の責務だと思いたすの
で、していただきたいと思いますが、その考えが
もし通るのであれば、これ何でもありになっ
てしまうと思います。やはり先ほどのいいくら委員
がおっしゃっていたように、前回の総務委員会でも
ありましたが、当初予算の重みというのは何なの
かなというところは考えなければいけないかと思
います。その中で補正を組んでいって、今回予算、
政策議論して決定しているというところがありま
すので、意味がなくなってしまうと私は強く懸念
しております。

そういったことを考えて、今、区の方では、今
後どういうふうな対応をこのレシート事業、あと
今後やっていくことも踏まえてしていくのか。こ
の予想をどういうふうにして、次のやるとした
ら何万件というのを出して、どのように締め切る
のか、そこまで教えていただかないと、また同
じように昨今の情勢をというふうに言えば、何で
もできてしまうような気がいたします。是非その
見解をお伺いしたいと思います。

○産業振興課長 まず件数を読み切れず、今回当初
予算の計画を変更することになったことは反省し
てございます。申し訳ございません。

次年度以降に関しましては、今回の実績を踏ま
えまして、どのように対応していくか、どのくら
いの件数にするのかというのを議会にもお諮りし
ながら考えていきたいと、実施の分も含めて考え
ていきたいと思っております。

○加地まさなお委員 ありがとうございます。是非
やっていただきたいのですが、多分、前回も同じ
ような話をしていると思います。

前回は、件数が上回らなかった、予想より。だ
からこそちょっと考え方が変わって、お金が余っ
てしまったという流れもあったと思いますが、今
回のことを踏まえて、しっかりとどこを上限にし

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

て、何日までにというのを決めていかなければ、予算幾らでも補正で出していきたいと思いますというふうになってしまいますので、議論の意味がなくなってしまうので、そこはしっかりと考えて、次のレシート事業を進めていって、進めるとしたらしっかりと説明をいただきたいと思います。

それと同時に、このそもそもの話をさせていただきます。この900円という設定なのですが、これも富田議員の質問にありました。これ足元のこの物価高対策考えると、日常の買物でも900円は、今ではすぐにいってしまうのではないかとというふうな質問をさせていただきました。消費喚起策の呼び水になってるのですかというふうな質問させていただいたのですが、答弁が喫茶店や和菓子屋さんの例を出して、900円という金額は日常の買物にプラスアルファの動機づけとしては十分に機能しているという認識しているという答弁でございました。

その中で、否定はしませんが、実際これコンビニとか大型スーパー対象にもなっていて、そこでレシートを集めてる区民の方も多数いらっしゃると思います。その中で、中小の個人店合わせて支援になっているのか、この税投入の効率性というところも踏まえて考えなければ、私はいけないと思います。その点はというふうに考えているかお聞かせください。

○産業振興課長 こちらについては、加地委員のおっしゃるとおり金額を上げた方がいいという意見もあれば、900円いかなところがあるので、金額を下げた方がいいという意見もいただいているところでございます。終わった後に繰り返しの答弁になってしまいますが、アンケートを行いますので、そこで妥当かどうか。また今回参加していない店舗、特に商連加盟店舗にも参加していないところがありますので、そういったところにも御意見いただきながら、金額設定の妥当性というのを考えていきたいと思っております。

○加地まさなお委員 ありがとうございます。

やはり始めた当初が、ちょっと数字を合わせるようなところがきつとあったと思うのですね。そこから始まっているというところがあって、今は内容が変わってきている。どこが皆さんが、次にもう少し買うのかというその基準を考えないと、いつまでたっても900円というのは、今、今回の補正通すのも物価高だから、高くなっているからという理由で皆さんも応募していると思いますので、そこはしっかりと考えていかなきゃいけないと思います。

そもそも、先ほどの話にちょっと戻りますけれども、900円という金額が日常の買物プラスアルファの動機づけとしては十分に機能しているという答弁だったのですが、個人店の調査というのはどれぐらい行われていて、いつ頃行われて、どの時期だったのかというのをお聞かせください。

○産業振興課長 個人店で1,563店舗に対して、全店舗にアンケートを取って7月31日までに御回答をいただく形になっております。特に提出時期はいつから出してくださいというのは明記していないところでございます。

○加地まさなお委員 分かりました。今現状を考えたら、この900円というのは、私が買物しても結構すぐいってしまいます。ということは、普通に買物すれば、日常生活すれば900円というところはたどり着いてしまう金額だとしたら、これは個人店の皆さんのこの呼び水、消費喚起策にはならないと感じます。なので、しっかりとデータを取ってもらって、平均の購入金額というのでしょうか、それが分かっていなければこの900円の根拠にならないと思うのですが、その点いかがでしょうか。

○産業振興課長 一枚一枚レシートを読み取って、どの店舗でどの金額のレシートが多かったかも出てまいりますので、そこも含めて分析をしてまいりたいと思います。

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

○加地まさなお委員 それは今、分かりましたが、平均的にどれぐらいが購入される金額なのかというところも、このレシートd e 事業だけではなくて、ほかの部分でも皆さんがものを買うときに、大体幾らが平均なのというのが分からなければ、今この900円に対して、今回この12万件というのをいったというところは分かっているのですけれども、そこからまた新しく始めるのだとしたら、その900円という基準からこれだけ12万件という上振れて、これが金額を3,000円に上げたから上がったのか、それとも物価高だから上がったのかというところが分からないですし、900円という妥当性、これはもう妥当性がないので、根拠になっていないので、今基準なので、この基準から、今実際に皆さんが平均購入金額がどれぐらいなのか、それに対して、これを超えたらどれぐらい皆さんが、お店の方もこれは経済的によくなるのかということも含めて考えなければいけないと思うのですが、いかがでしょうか。

○区長 今平均という話が出ました。平均も非常に重要だと思いますけれども、まず物価が高騰していく中で、なかなか経済的に厳しい方にも、この事業に御参加いただきたい。裾野を広げていくという意味でも、ひとつ900円というのは、妥当があるかどうか、これからのまた検証させていただきましても、購入力のある方もいらっしゃる、厳しい年金の中だけで生活されていらっしゃる方もいる、そういう方にとっても、私もこれだったら参加できるわと思っていただくのも非常に重要な観点だと思います。

平均にしてしまうと、本来、私たちが見ていかなければならない弱者のところが弱まってしまう可能性もありますので、いただいた御意見につきましては、きちっと受け止めながら、定額の方、そしてかなり高額にお買物されてる方の傾向ですとか、または店舗によっても、扱うものによって使われる金額違うと思いますので、加地委員がお

っしゃるところを明確に分析するというのはなかなか困難かと思いますが、改めて、またどういったお考えなのかということも伺って、少しでも、そういったところ明らかにできるように努力はしてまいりたいと思います。

○加地まさなお委員 ありがとうございます。区長から答弁いただいたので、そこはしっかりやっていただきたいと思います。

これがもう物価高対策なのか、消費喚起策なのかというのが曖昧になっているからこそ、こういう現象が起きてしまう、補正を繰り返さなければいけないというふうになっていると思います。物価高対策ならば物価高対策として、しっかりと振り切って、生活ができない困窮してる方に対してのアプローチなのだよというふうにしていいただければ、私たちもこの考え方少し変わります。

それと同時に、我が会派ではずっとこのレシート事業の進め方自体に懸念を示して質問を重ねさせていただいておりますので、今回のようにまたもう上限いったから、皆さんのためになるからというのではなくて、しっかりと根拠を持って、エビデンスを持って、私たちの議会の方にも質疑をするための情報をいただけないと、やっтер意味がなくなってしまう。先ほども言わせていただきましたけれども、ここで議論していること、政策を詰めていくことという意味がなくなってしまうので、そこはしっかりとしていただきたいと要望させていただきまして、終わります。

○吉岡茂委員長 他に質疑よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○吉岡茂委員長 質疑なしと認めます。

それでは、各会派から意見をお願いいたします。

○くじらい実委員 賛成です。

○いいくら昭二委員 我が会派で先ほど質疑しましたように、区民の皆様方の安心・安全、また発展のためあるという補正予算でございます。賛成ということで。

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

○ぬかが和子委員 補正予算の在り方についての意見も何人かいらっしやっただけけれども、私は当初の予算というのはもともと去年組んでる予算なわけで、もちろん正確な見通しは必要だし、当初予算に盛り込めるのに盛り込まなかったものは、指摘があるのも当然だと思うけれども、やっぱり行政側にしてみると、どの自治体でも補正予算の壁とよく言われていて、何かといったら補正予算組む方が大変だと。なぜならば、議会の壁も越えなきゃいけない、事務量も増える。だけれども、足立区においては、私はきちんと補正予算で必要なものを機敏に対応しようという、そういうふうに判断されてる姿勢というのは、私はとてもいいと思ってるのです。そこはしっかりとこれからいろいろな情勢が動く中で、必要なものについては、きちんと機敏に補正予算を組むという姿勢で頑張っていただきたいと思います。この補正予算についても賛成します。

○加地まさなお委員 私たちも賛成をさせていただきますが、先ほど言わせていただいたように、やっぱりこのレシートde事業というのが今後、続いていくのならば、今までにもいろいろなトラブル多数ありました。それに対してしっかりとした答弁もいただけてないところも多数あります。ここでは長くなりますので、産業環境委員会の方でまた質疑を重ねさせていただいて、本当の消費喚起策、これ区内経済にとっていいのか、物価高対策になっているのかということも含めて、しっかりと議論をさせていただきたいと思いますが、今回のこの補正予算に関しては賛成とさせていただきます。

○佐藤あい委員 エアコン購入費補助に関しては、区民の命と健康を守る観点から必要な支援であると思いますし、今回丁寧な聞き取りを行う中で、故障だけでなく効きが悪いというような方に対しても、買換えを進めていただいたというところに関しては、支援を必要とされる方々の状況に寄り

添って進めていただいた結果だと思っております。

また、商品券事業におきましても、やはりこれだけ区民ニーズが高かったというところでありますので、そこにニーズに合わせた補正予算であると受け止めておりますので、今後、アンケート等を分析をいただくということで、更により事業になっていくことを期待しまして、補正予算については賛成いたします。

○吉岡茂委員長 分かりました。

それでは、これより採決をいたします。

本案は、原案のとおり可決すべきものとすることに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○吉岡茂委員長 御異議ないと認め、原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。

以上で総務委員会を閉会いたします。

午後1時41分閉会